

2022年9月29日(木) 18時~19時30分 @市民プラザ



第2回 病院で使う日本語と「わたしの健康カード」の教室

生活日本語教室」と「じょんなび」のコラボ!

10月9日(日) 上越タイムス

10月12日(水) 新潟日報

JOIN が木曜日の夜に実施している「生活日本語教室」で、7月に続き第二回目の特別講座「健康カードの教室」が開かれ学習者3名が参加しました。

講師から、以下の所感が寄せられました
「学習者が健康カードの記入の際に感じたこの困難は、外国人患者が病院で問診票の記入を求められた際に感じている困難そのものであることを考えると、日本語教室で外国人市民の学習を支援するだけでなく、社会として、そのほかの方法と組み合わせで支援していく必要がある」

外国人診療に一役

上越国際交流協会「健康カード」共に製作

JOINメンバーらのアドバイスを受け、健康カードに記入していった

上越国際交流協会

上越市に住む海外出身者対象の教室が、

教室で「わたしの健康カード」に記入する参加者(左)と上越市土橋

を復唱して覚えた。緊急時の連絡先や持病などを医療機関に示す「わたしの健康カード」も作成。ボランティアの助けを借りながら日本語で記入した。

参加者の一人で、英語指導手(ALET)をしている英国出身のエレナ・ジェイコブソン(23)は「受診の仕方を確認できてよかった。健康カードを持っていたれば、急に病院にかかる時安心だ」と話した。

上越国際交流協会(JOIN)は、上越市内に滞在する外国人を対象に、生活日本語教室を開講している。その特別版「健康カードを作る講座」をのほど、同市土橋の市民プラザで開いた。

同教室は同所と直江津市の交流館で定期的に開いており、本年度から、頸城区の頸城地区公民館南川分館でもスタート。特別版は7月に続き2回目。病气などの際にアレルギーや持病、かかりつけ医などを医師に伝えるカード作りに取り組んだ。

健康カードはJOINの外国人医療支援プロジェクト「じょんなび」が進めているもの。じょんなびの倉井厚子さんは「病院は外国人が困っていることのトップ10に入る。行かずに我慢して悪化させることもある」と話す。

講座は初めに病院で必要なものや診察の手順などを説明、受付で使うことが多い日本語を練習した。カード作りはJOINのメンバーが手伝い、名前や緊急時の連絡先、日本語がどれくらいできるかなどを記入した。

約1カ月前にイギリスから来日したALETのジェイブ・エレナさん(23)は「手伝ってもらい、簡単に書けた。とても大事なカードなので毎日持っています」と話した。

受診の応答スムーズに

上越 海外出身者対象の教室

上越市に住む海外出身者対象の教室が、

教室で「わたしの健康カード」に記入する参加者(左)と上越市土橋

を復唱して覚えた。緊急時の連絡先や持病などを医療機関に示す「わたしの健康カード」も作成。ボランティアの助けを借りながら日本語で記入した。

参加者の一人で、英語指導手(ALET)をしている英国出身のエレナ・ジェイコブソン(23)は「受診の仕方を確認できてよかった。健康カードを持っていたれば、急に病院にかかる時安心だ」と話した。

*「わたしの健康カード」を作りたい人 *健康カードの記入を手伝う人
募集しています
お問い合わせは じょんなび まで jomnavi624@gmail.com